

年少児保育案

はな組 男児9名 女児10名 計19名
保育者 福戸山 かな 成川 梨恵

1 幼児の実態

子どもたちは、幼稚園での生活を楽しみに登園するようになり、友だちと一緒に自分の好きな遊びを楽しんでいる。友だちとのかかわりが増えてきた分、気持ちがぶつかり合う場面も増えてきたが、保育者が仲介に入り気持ちを代弁したり必要な言葉を知らせたりしていくことで、自分の気持ちを言葉で相手に伝えようとする姿が見られるようになってきた。また、保育者から友だちの気持ちを聞いて相手の気持ちを知る経験も積み重ね、少しずつ相手の話を聞くこともできるようになってきている。生活に必要なことや身の回りの始末など自分でできることが増え、自信をもち、自分から進んでしようとする姿も見られるようになってきた。

園庭では、友だちと一緒に色鬼やかくれんぼ、あぶくたったなど寒い日でも体を動かして遊ぶことを楽しんでいる。また、砂場で砂と水を混ぜてごちそうをつくったり、家を決めて家族ごっこやヒーローごっこをしたりして遊んでいる。ブランコや鉄棒など、様々な固定遊具や長縄飛びに挑戦する姿も見られる。また、畑の野菜に水をあげて成長を楽しみにしたり、ウサギと触れ合ったりと、動植物にも親しんでいる。

室内では、ヒーローやお母さん、ペットなど好きな役になったり、必要なものを揃え友だちや保育者と環境をつくったりしながら楽しんでいる。空き箱や牛乳パック、色紙などを組み合わせてペットや楽器など自分のつくりたいものをつくり、遊びに使って楽しんでいる。製作の中で、つくり方を友だちに教えたり手伝ったりするなど、友だちに親しみ、思いやる姿も見られる。絵本にも興味をもち、絵本コーナーで絵本を見たり、遊びの中で子ども同士で読み聞かせごっこをしたりする姿も見られる。

このように子どもたちは、友だちや保育者とのかかわりを深めながら、幼稚園内の様々な活動や環境に興味をもってかかわり、自分の好きな遊びを楽しんでいる。

2 遊びの価値とねらい

子どもたちは、友だちや保育者と一緒に遊ぶことを通して、人とのかかわりや言葉のやりとりなどの経験を少しずつ積み重ねてきている。その中で、楽しい気持ちや発見したことなど自分の思いを伝え、相手に分かってもらえた喜びを感じている。

色鬼やあぶくたったなどは、友だちや保育者と一緒に遊ぶ中でルールを守ることの大切さに気付くことができる。遊びながら、誰が鬼になるかを決めたり、役割を交代しながら遊んだりすることができる。遊びを通して、友だちや保育者と言葉を交わす楽しさを感じられるようにしたい。また、体を動かすことで、体が暖まる心地よさや友だちと手をつないだ温もりを感じることができるのではないだろうか。

ごっこ遊びは、友だちと話をしながら、なりたい役を決めたり必要な道具を準備したりして遊びを楽しむことができる。ヒーローや家族など自分がなりたい役を話したり、友だちの話を聞いたりすることでイメージを共有し、遊びをさらに楽しむことができる。友だちに自分の思いを伝え、相手の思いを聞きながら遊びを盛り上げていくことができる遊びとして大切にしたい。

こうした遊びは、友だちとかかわりながら遊ぶことを楽しみ、自分の思いを話したり、友だちの話を聞いたりして、自分の思いが相手に分かってもらえた喜びを感じる姿へとつながっていくと考える。

3 この期の保育について

(1) ねらい

- 友だちとかかわりながら遊ぶことを楽しむ。
- 身近な冬の自然に触れて楽しく遊ぶ。

(2) 内容

- 友だちを遊びに誘って、好きな遊びを楽しむ。
- 自分の思いを自分なりの言葉で友だちや保育者に話そうとしたり、相手の話を聞こうとしたりする。
- 寒さに負けず、戸外で元気に遊ぶ。
- 霜柱や氷など冬の自然に触れる。
- 身の回りのことや生活に必要なことを自分でしようとする気持ちをもって取り組む。
- 冬の健康な生活の仕方を知る。

4 本日の保育について

(1) ねらい

- 友だちを誘って、好きな遊びを楽しむ。
- 身の回りのことや生活に必要なことを自分でしようとする。

(2) 内容

- 色鬼やあぶくになった、ごっこ遊びなど友だちを誘って遊ぶ。
- 一緒に遊びながら、自分の思いを自分なりの言葉で友だちや保育者に伝えようとする。
- 園庭で遊びながら、日なたの暖かさや吐く息の白さなど、冬ならではの自然に触れる。
- 自分から進んで片付けや手洗い・うがい、衣服の着脱に取り組もうとする。

(3) 保育に当たって

ア 人とのかかわり

- 友だちを誘って遊ぶ姿を見守り、保育者も仲間となって遊びたい。その中で、自分の思いを友だちに伝えようとする姿を見守り、相手に伝わったうれしさを感じることができるよう言葉掛けをしたい。
- 自分の思いを通そうとして気持ちがぶつかる場面では、じっくりと両者の話を聞き、自分なりの言葉で相手に思いを伝えようとする姿を見守りたい。また、友だちの話を聞くことで、相手の思いにも気付くことができるように言葉を掛けていく。
- 衣服の調節や手洗い・うがいなど、冬の健康な生活の仕方を知らせ、自分から進んで取り組もうとする姿を見守り、必要に応じて気付かせたり手伝ったりする。

イ ものとのかかわり

- 遊びに必要なものをつくったり、使ったりできるように数・種類を揃えて準備し、遊びが充実するようにしたい。
- 園庭の様々な固定遊具に積極的にかかわり、自分からやってみようとする姿を見守り、保育者も一緒に楽しみたい。必要に応じて手伝ったり、励ます言葉掛けをしたりしてできたことへの満足感を感じられるようにする。
- 絵本に興味をもち、好きな絵本を選んで眺めたり、自分なりのストーリーをつくって話したりする姿を見守り、保育者も一緒にイメージを楽しみたい。

ウ 自然とのかかわり

- 吐く息の白さや風や水の冷たさなど、冬ならではの自然に触れる機会を大切にし、その不思議さについても話題にしていきたい。寒さの中でも、日なたの暖かさや体を動かすと体が暖まってくることなどを一緒に感じながら、気付かせていきたい。
- 二十日大根やクロッカスの様子を見たり水を掛けたりする中で成長に気付く姿を見守り、共に喜ぶようにする。